



9月も半ばに入り、朝夕は涼しくなりました。学校そばの川岸には、彼岸花がいくつも咲いており、秋の訪れを感じます。

さて、13日からは、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除（佐世保市を除く）され、感染ステージは4に下がりました。しかし、新規感染者を年代別に見ると、10代や10歳未満の子どもの割合が増え、先週末までの統計では、全体の3割を占めています。このため、授業の中ではできるだけ密接を避け、来月17日の運動会の参観者も、対象や人数を制限させていただく予定です。詳しくは、後日配付する案内文書に記載しますので、ご覧ください。

夏休み作品展

今年も、子どもたちが夏休み中に取り組んだ作品が、多目的室や家庭科室にずらりと並びました。絵画や習字、貝殻や木の葉などの自然の素材を使った工作、布・紙・木類を使った工作や飾り物、大掛かりな物から細かい作業が必要な物まで、いろんな作品が見られました。また、自由研究は、中学年以上の子どもがよく取り組み、観察や採集、実験や現地調査など、バラエティに富んでいました。自然観察は、8月の長雨で苦労したと思いますが、方法や結果を詳しくまとめ、視覚に訴える工夫もされて、見ごたえのある作品に仕上がっていました。



理科分野の自由研究は、校内で代表の5点を選び、9月16日から諫早市美術・歴史館で開かれる「小・中学校科学展」に出品しました。市内の入選作が22日まで展示されますので、お時間のある方は、お子さんを連れて観に行かれてください。

理科分野の自由研究は、校内で代表の5点を選び、9月16日から諫早市美術・歴史館で開かれる「小・中学校科学展」に出品しました。市内の入選作が22日まで展示されますので、お時間のある方は、お子さんを連れて観に行かれてください。

「よりよく生きる力」を伸ばしていくための基盤

子どもの「よりよく生きる力」は、「心が安定した状態」の中で育っていくものだと思います。ですから、そのための基盤（環境）がしっかりしていれば、よりスムーズに力が身に付くはずで

そこで、米国の教育学者、ドロシー・ロー・ノルトさんの「子どもが育つ魔法の言葉」の中から、一つの詩を紹介します。この詩から、子どもの「よりよく生きる力」を伸ばすヒントが見えてきます。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになるとげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つけてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだとおもえるようになる